【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】

都道府県名	大阪

Ⅰ．学校の概要（平成 15 年４月現在）

学校名	岬町立岬中学校					
学年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	４	４	５	１	１４	３０
生徒数	１４０	１４９	１９０	１年３ ３年２	４８４	

Ⅱ．研究の概要

１．研究主題

少人数授業を生かし、生徒の興味関心を喚起し、基礎基本の定着をめざすとともに自主的な学習態度を育成する授業づくり

２．研究内容と方法

（１）実施学年・教科（選択した理由）

・第１学年　国語
　小学校６年間の結果として子どもの理解度に差が表れてくるが、入学後、ラーニングセンター（学校図書館）の施設や蔵書に興味を示し、急激に読書量が増える時期でもあるため
・第２学年　理科
　理科嫌いが定着しないために、理科のおもしろさを体験させるため

（２）年次ごとの計画

平成14年度	○テーマ ・興味・関心を喚起する授業づくり　・自主的な学習態度の育成 ○仮説 興味・関心を喚起し、興味・関心を満たすことで自主的な学習態度が育成される。 ○研究内容・方法 ①学力向上のための校内体制のあり方の研究 ・学力・評価検討委員会の設置 ・学力保障委員会の中に少人数授業研究担当設置（学力分析・少人数授業の編成の工夫と効果的な指導方法の研究） ・研究校の視察と実践に学ぶ研修や大学教授を招聘し研修を深める。 （理科・数学科） ②基礎基本の定着と応用力の育成のための選択授業の実施 （第２学年と第３学年の週１時間を設定） ③興味関心を高め、自主的に学ぶ姿勢を育む生徒選択授業の充実 （地域の教育ボランティアや大学生の参加） ④国語科をはじめとする各教科でのラーニングセンター（学校図書館）の活用についての研修を実施（８月２０日に講師を招聘） ⑤文部科学省教育総合推進地域事業で公開授業（１１月 16 日） （国語科・英語科・数学科・選択教科（理科・技術家庭科））

平成15年度	○テーマ ・一人ひとりの学び方を重視する。 ・自主的な学習力の育成 ○仮説 少人数授業を生かして一人ひとりの学び方を重視することで、子どもたちが自主的に学習を進める態度を育成する。 ○研究内容・方法 ①個に応じた指導方法・指導体制の工夫・改善と教材開発（研究校の実践に学ぶとともに、自らも授業研究を行う。） ②学習意欲を高める評価のあり方の研究
平成16年度	○テーマ ・調べ・まとめ・表現する力の育成 ○仮説 少人数授業を生かして一人ひとりの学び方を重視するとともに、学級や学年など外に向けて発信・表現する力を育成する。 ○研究内容・方法 ①研究・実践の整理 （基礎・基本の定着に向けた取組や、課題別学習等の発展的な学習の取組を点検する。） ②研究授業の継続

（３）研究推進体制

（１）組織

①学力・評価検討委員会（校長、教頭、教務主任、人権教育主担、学力保障部長、教科主任）と少人数授業推進委員会（校長、教頭、教務主任、人権教育主担、学力保障部長、国語・数学・理科・英語の各教科主任）を設置し、定期的に効果的な教育課程の編成、授業内容、評価方法などについて企画・研究・検討を行う。

②学力保障部の中に少人数授業研究担当を設置し、学力分析を実施し、効果的な指導方法を研究する。

③他市町村の研究校を視察して、実践に学び、研究を深める。

④研究授業を実施し、校内研修会で教職員の意識向上をはかり授業改革を行う。

⑤定期テスト等において、分析を行い、各教科の目標がどれだけ達成されたかを確認し、より効果的な指導方法を研究する。また、各教科の特性に応じて、単元毎の点検や実験や観察を終えた後の研究発表で理解がどれだけ深められたのかを確認する。

（２）研究体制

	1年	2年	3年	計
国語	４ｈ×４＝１６ｈ			１６ｈ
理科		３ｈ×４ｃ＝１２ｈ	2.3ｈ×５ｃ＝11.5ｈ	23.5ｈ
計	１６ｈ	１２ｈ	11.5ｈ	39.5ｈ

・少人数加配・授業担当者表

担当者	教科	促進担当時間	学年	授業形態
A	国語	４ｈ×４ｃ	１年	分割
B	理科	３ｈ×４ｃ	２年	分割
C	理科	2.3ｈ×５ｃ	３年	分割

・その他、選択授業の運用時間

	時間	合計時間
３年選択・理科	０．７ｈ×５ｃ	３．５ｈ

Ⅲ．平成 15 年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果　　**資料１（国語・理科）**

実践研究の内容

★研究内容

- 少人数授業の編成のありかた
- 基礎学力を向上させる授業
- 自己学習力向上の授業
- 実験・体験・課題別学習

国語科においては、平成９年に８教室分のスペースを持つ学校図書館（ラーニングセンター）がスタートして以来、積極的に授業でラーニングセンター（図書館）の施設や図書資料を活用して、生徒が自主的な学習姿勢を身につけ、学ぶことの喜びを見いださせるための授業づくりにとりくんできた。平成１５年度は、これまでに積み重ねてきた様々な手法・形態を進化・発展させ、少人数授業によってさらなる学習意欲や学力の向上をはかるとともに、生徒一人ひとりにきめ細かい指導を行い、「調べ、まとめ、表現する」力の育成を図ってきた。

理科においては、発展的な内容も含め、より多くの体験を経て、理科に対するおもしろさや不思議さから、「なぜだろう。」「どうしてだろう。」と疑問につなげ、探究心を育て、自ら考え、自主的に調べ、作業して分かった事を少人数で擦りあわせるとりくみを行い、一人ひとりの理解の筋道を重視して、交流する授業を実施。すなわち実験など体験による動機づけを行い、少人数の授業を生かし、生徒一人ひとりに多くの体験を保障し、「おもしろい。」と感じさせ、その中で基礎・基本をしっかりと定着させ、科学的な考え方の基本を育成してきた。

また国語科と同様に、本校のラーニングセンターを活用して「調べ、考え、まとめ、発表する」力を身につけるとともに、一人ひとりの興味・関心に応じた課題別学習にもとりくみ、個に応じた指導のための指導方法・指導体制を工夫・改善を行い、発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発を行い、自主的な学習力を育成してきた。

２．今後の課題

国語科では学校図書館の豊富な資料やコンピューターを活用して少人数授業を行い、「調べ、まとめ、表現する」力の育成を図ってきた。このことにより、優れた作品や発表が数多く生まれ、学校図書館や校内に掲示することでさらに、一層の優れた作品づくりへの啓発となっている。

同じく理科でも、コンピューターでの授業や学校図書館の資料を活用した調べ学習などで課題別学習や発展的な学習を実施し、少人数授業を有効に活用した実験や調査などで理科嫌いをなくすとりくみと合わせて生徒たちが自主的に学習に取り組む力を育成して来ている。

これらの「**まとめる力、表現する力や創造力**」など、点数化が困難な個人の評価について、観点別・個人内評価を実施してきたが今後とも、学習意欲を高める評価のあり方を研究する。

現在、選択授業で、問題演習等の中では、コース選択という形で習熟度別におこなっているが、必修教科の中でも習熟度別での分割やコース選択学習の取組を拡大し、子ども個々の興味・関心に応じるとともに、理解度に応じた学習形態をとれる人員配置を願い、更なる学力向上を目指す実践を追及したい。

学力保障部会では今年度実施の学力実態調査を継続して、基礎学力の定着に向けて、補充学習・家庭学習の必要性を全教職員の共通認識にすると共に、具体的な対策、とりくみの時間確保について方針を出すべく問題提起の準備を行う。同時に、子どもたちの学力向上と定着に向けて保護者・地域と共に協働の連携をとりくむための啓発活動を行う。

外部講師・助言者の要請については、協力を申し出ていただいた教授陣と教科との日程調整がうまくできなかったので、年間計画をきちんと立て、共同研究に取り掛かる。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

１．教科学習の定着の点検と教科指導の点検のための定期テスト
（１学期：中間・期末、２学期：中間・期末、３学期学期末）－中間テストは５教科・期末テストは９教科

２．進路選択の資料及び学習の積み重ねの実態調査としての学力診断テスト
（３年：9 月・10 月・11 月・12 月・１月）（１，２年：2 月）－５教科

３．指導要領の改訂を受け、これまでの学力実態テストでは継続して年度ごとの比較が不可能となったため、改正し、今後の比較検討に耐える学力分析調査テスト実施。今年度は比較のための基礎資料となる。　実施日（１年：８月 20 日、２年：８月 21 日、３年：８月 22 日）

４．その他
学力実態調査【大阪府】（４月２５日）
教育課程実施状況調査【国立教育政策研究所】（１，２年：２月１７日、３年：１月２２日）

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

①国語科：「大阪の子どもたち」子どもの生活白書－２００２年版
——特集　子どもとメディア——大阪府人権教育協議会出版
P.102 から P.107 にラーニングセンターの報告

②平成１４年１１月１６日（土）
文部科学省教育総合推進地域事業の研究発表で公開授業を実施。
国語科・英語科・数学科・選択教科（理科・技術家庭科）

③平成１５年　雑誌「エストレーラ」９月号（統計情報研究開発センター）
「ラーセンへ行こう」：国語科・英語科の取組発表

④平成１５年１２月４日（木）
大阪府教育委員会主催・読書の楽しさ発見フォーラムで実践報告

⑤平成１６年1月３０日（金）
大阪府・泉南人権教育研究協議会主催研究集会「学力保障と授業づくり」の分科会で国語科の取組報告

⑥平成１６年　雑誌「中等教育資料」（ぎょうせい）４月号
「学校図書館を拠点として」：国語科の取組発表

⑦その他
大阪府の地域教育協議会（すこやかネット）の取組や文部科学省の教育総合推進地域事業の指定をうけることで、多くの教育ボランティアと協働で子どもたちを指導する状況を生み出してきた。併せて和歌山大学や大阪体育大学と協定を結び大学生のボランティアが子どもたちの学びに教員と協働する状況を定着させてきた。
また、保護者向けにホームページを作成している。

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　☐１５年度からの新規校　☑１４年度からの継続校

【学校規模】　☐３学級以下　☐４～６学級
☐７～９学級　☐１０～１２学級
☑１３～１５学級　☐１６学級以上

【指導体制】　☑少人数指導　☑Ｔ．Ｔによる指導
☑その他

【研究教科】　☑国語　☐社会　☐数学　☑理科
☐外国語　☐音楽　☐美術　☐技術・家庭
☐保健体育　☐その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑　有　☐　無